

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

G. ガリラヤへの第二の旅

14. イエスは盲人と口がきけない人を癒す（奇跡第17、18）

デイリー・ジーザス・ニュース #100

MT 9.27-34 (並行テキスト：なし)

27 イエスがそこから進んで行かれると、二人の盲人が叫びながらイエスについて来た。「ダビデの子よ、どうか私たちをあわれんでください。」 28 イエスが家の中に入つて行かれると、盲人たちちはイエスのもとに來た。イエスは彼らに言われた。

「私がこれを作ると本当に信じますか？」

「はい、主よ」と彼らは答えました。

29 それからイエスは彼らの目に触れて言われた、「あなたがたの信じたとおりになるように、命じる」。
30 すると、彼らの目は元どおりになった。

イエスは彼らに厳しく命じました。「このことは誰にも知られないようにしなさい。」

31 しかし、彼らは出かけて行って、その地方中にイエスのことを知らせた。

32 彼らが出て行くと、悪霊に取りつかれて口がきけない人がイエスのもとに連れて来られた。33 悪霊が追い出されると、口がきけなかつた人が口がきけるようになった。群衆は驚いて言った。「イスラエルでこのようなことはかつて見たことがない。」

34 しかし、パリサイ人たちは言った。「彼は悪霊の頭によって悪霊を追い出しているのだ。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク=^M、ルカ=^L、ヨハネ=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤ湖畔の町、おそらくカペナウム
タイムライン	5月～10月（16～21か月目）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	G. 第2回ガリラヤ巡礼

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

タイトル

14. イエスは盲人と口がきけない人を癒す（奇跡 #17 & #18）

コメント：

第二のガリラヤ巡礼における5番目と6番目の奇跡は、イエスがたとえ話を用いて教えられた後に続いた6つの奇跡の驚くべき連続のクライマックスでした。共観福音書の3人の記者の中で、マタイだけがこの2つの奇跡を記しており、どちらもイエスとの関係における信仰の役割を強調し続けています。5番目の奇跡は神に喜ばれる信仰を要約し、6番目の奇跡はパリサイ人がイエスを拒絶する信仰を示すことで終わります。

イエスは二人の盲人を癒す際に、神と私たちの関係を決定する重要な原則を述べました。

「私はあなたが信じたとおりにそれがあなたに対してなされるように命じます。」

「あなたの信じたとおりになりますように」という表現が使われています。イエスはここで、英語には存在しないギリシャ語の文法構造を用いています。「なされるように」は英語でこの考えを表現する最もシンプルな方法ですが、残念ながらこの表現では、イエスが実際に命令形を用いていたこと、つまり命令していたことが伝わりません。そこで私は、イエスの言葉のより深い意味を「わたしは、あなたにそれがなされるように命じる...」と訳すことにしました。

イエスは、主がかつて見た中で最も偉大な信仰を示したローマの百人隊長に対しても、同じ戒めを与えました。この原則を神が定めたからこそ、私たち一人ひとりにとって、信仰がこれほどまでに力強い力となるのです。それが神、自分自身、友人、配偶者、仕事仲間など、誰に対してであってもです。私たちは皆、信仰によって生きるように創造されています。なぜなら、限られた知識と理解力を持つ私たちは、常に十分に理解していないものに頼っているからです。

イエスは、ご自身が創造したすべてのもの、すべての創造物に、ご自身に完全に信頼を置く人々の信仰に応えるという目的を果たすよう命じられました。イエスはすでに人々に尋ねておられました。 「わたしにこれができると、本当に信じますか？」

イエスは彼らに、一時的な信仰ではなく、彼らの願いをかなえてくださるというイエスの力を信じ続けるような信仰を持っているかどうかを尋ねておられました。イエスは既に彼らがその信仰を持っていることをご存じでしたが、この質問をされたのは、彼らの信仰を強調し、引き出すためでした。イエスが彼らの信仰に従ってなされるようにと命じられた時、イエスは彼らに、そして私たち皆さんに、信仰こそが神との関係を左右する決定的な要素であることを教えられたのです。

イエスは、私たちが常に、イエスへの継続的な信仰によって生きることを望んでおられます。イエスから何か特別なものを必要とする時だけでなく、常にそうであってほしいと願っておられます。神は、私たちが神との関係において経験するすべてのことが、私たちの信仰に基づいて評価されると定められました。イエスの二度目のガリラヤ巡礼における、この六つの連続した奇跡は、救いに至る信仰の本質を強調するために行われたのです。

これらの奇跡の中でイエスが信仰の役割を示す一連の発言を思い出してください。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

奇跡その13: 「あなたの信仰はどこにありますか？信仰がないのですか？」

奇跡その14: 「ただ信じ続けること」

奇跡その16: 「あなたの信仰はあなたを永久に健やかにしました。」

奇跡その17: 「私がこれを行うことができると本当に信じますか？あなたが信じたとおりに、このことが行われるように命じます。」

神がすべての被造物に対して絶対的な主権を持っているという信仰は、神が言わされたことを必ず実行すると信じることを意味します。神だけがその力を持っています。ですから、イエスが語る時、自然（嵐を静める）、悪魔とその軍団（「レギオン」による悪魔祓い）、死（ヤイロの娘の蘇生）、病気（出血性の女性）、そしてあらゆる肉体の病（盲人と口がきけない人）を支配します。

目に見えるものも見えないものも、神の言葉に抵抗できるものは何もありません。それゆえ、神は「私たちが信じたとおりに、私たちに成就する」と命じられました。それが私たちへの神の言葉なのです。

奇跡18のパリサイ人は、正反対の信仰を示しました。イエスの救いの業を見ながらも、イエスが自ら語るような存在ではないと信じ、イエスを拒絶する信仰です。彼らは二度目の巡礼の旅を、イエスが聖霊ではなく悪魔の力で聖霊を追い出していると信じて始めました。そして、イエスを信じることができるように、「しるし」を求め続けました。

ちょうどその前日、イエスはこの巡回旅行の途中で、悪霊どもを一斉に追い出し、彼らがイエスの前にひれ伏して神の子であることを認めたのです。それから、二人の盲人を癒し、さらにもう一人の悪霊を追い出し、口がきけない人を癒しました。人々は、このようなことは今まで見たことも聞いたこともないと驚きました。しかし、パリサイ人たちは、イエスに働く悪魔の力を見ていると信じていました。彼らは「悪霊の頭によって、彼は悪霊を追い出しているのだ」という言葉でその信仰を表明しました。

ですから、イエスが命じたことは彼らにとって真実でした。彼らはイエスが悪霊に取り憑かれていると信じていたのです。彼らの現実は、彼らの信念によって支配されていました。それ以後、イエスが何を言おうと何をしようと、これらのパリサイ人たちはイエスの中に悪魔しか見ることができませんでした。彼らは、赦しの与えられない唯一の罪、すなわちイエスが悪魔と一体であり、聖霊によって油注がれていないという罪を、絶えず心に刻み込んでいました。

応用：

信仰は非常に強力なものです。神は、私たちが何を信じるかが、神との関係、そして神が創造したすべてのものを決定すると定められました。

この真理こそが、イエスが弟子たちに、御言葉に、そして彼らが心と心に受け入れた信仰に、常に注意深く耳を傾けるよう勧めた理由です。私たちは皆、信仰によって生きています。そうしないことは不可能です。ガリラヤへの第二巡回における六つの奇跡は、この真理を教えています。唯一の疑問は、私たちは何を、あるいは誰を信じるのでしょうか、ということです。

あなたの人生において、信仰はどれほど大切なものですか？それは十分に大切なものですか？

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

意識的に信仰を守り、成長させるために、あなたは何をしていますか？信仰を築くためのあなたの計画はありますか？